

加賀電子株式会社

個人投資家様向け会社説明会

2019年2月25日

加賀電子株式会社

常務取締役
管理本部長 川村 英治

目次

- **会社プロフィール**

会社概要・フィロソフィー・沿革	P- 3～5
加賀電子グループのアセット・事業領域	P- 6～7
加賀電子グループの強み	P- 8～10

- **成長シナリオ**

次期中期経営計画	P-12～16
富士通エレクトロニクスの買収	P-18～21

- **加賀電子のCSR・株主還元**

加賀電子グループのCSR活動	P-23
株主還元・株価推移	P-24～25

- **参考データ：直近の会社業績、その他**

2018年度業績予想	P-27～29
過去5年の業績	P-30～31

加賀電子のプロフィール

会社概要

※2018年4月1日現在

- 会社名 加賀電子株式会社
(英文：KAGA ELECTRONICS CO., LTD.)
- 代表者 代表取締役会長 塚本 勲
代表取締役社長 門 良一
- 本社所在地 東京都千代田区神田松永町20番地
- 設立 1968年（昭和43年）9月12日
- 資本金 121億33百万円
- 上場市場 東証 1 部（証券コード：8154）
- 連結売上高 2,359億円（2018年3月期）



創業者・
代表取締役会長
塚本 勲

代表取締役社長
門 良一

会社名の由来

石川県金沢市出身の創業者塚本勲が、会社設立時に社名について両親に相談したところ、母からの「加賀百万石出身だから加賀電子は？」という提案を受けて命名されました。

企業理念

すべてはお客様のために

ビジネスモデル

独立系、ワンストップサービスの
エレクトロニクス総合商社

行動指針

F.Y.T.

Flexibility = 柔軟な対応

Young = 常に若々しく

Try = 果敢に挑戦

3G

General = あらゆるものを

Global = 全世界で

Group = 総合力を活かして

沿革



資本金100万円で
「加賀電子株式会社」設立
(東京都千代田区外神田)

«1981年 海外進出»
TAXAN (USA)
アメリカ合衆国に設立



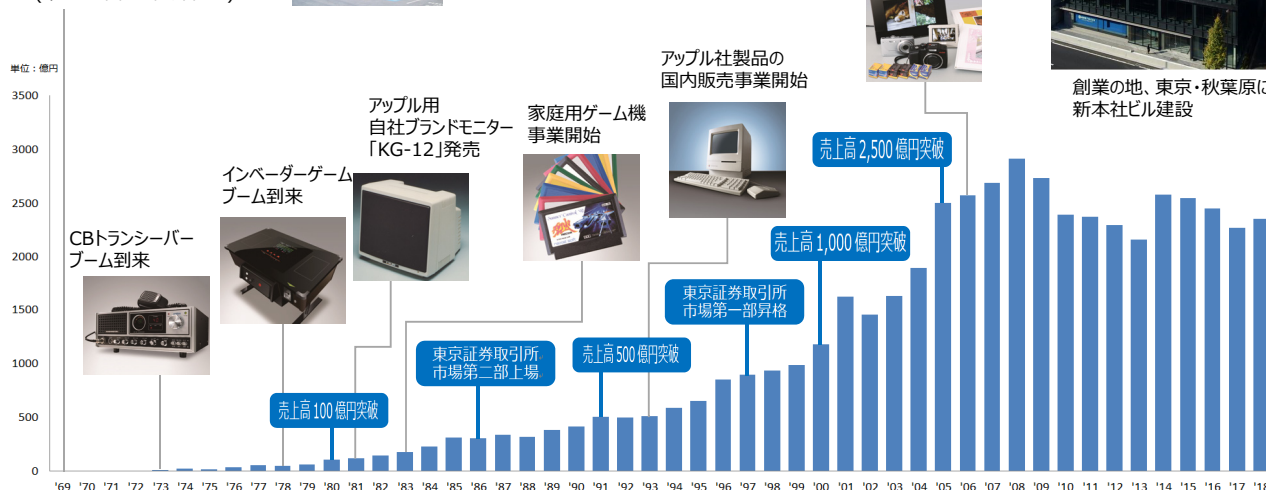
«1992年 EMS事業を開始»
KAGA (H.K.)
香港に設立



コダック社製品の
国内総販売代理店権獲得



創業の地、東京・秋葉原に
新本社ビル建設



加賀電子グループのアセット

調達先



2,000社

顧客数



4,000社

グループ会社 / 自社工場 ※

45社 / 16カ所

国内 **15社 / 3カ所**

海外 **30社 / 13カ所**

従業員 ※

5,530人

加賀電子本体 **583人**

国内グループ会社 **1,370人**

海外グループ会社 **3,577人**

※2018年12月31日末現在

加賀電子グループの事業領域

電子部品・半導体ビジネス



国内外のお客様へ、一般電子部品・半導体等の販売代理店活動

EMSビジネス



完成品から半完成品まで設計開発製造のトータルサポートを実施

情報機器ビジネス



PCや周辺機器を国内外の流通チャネルに供給、及びネットワークソリューション分野への対応

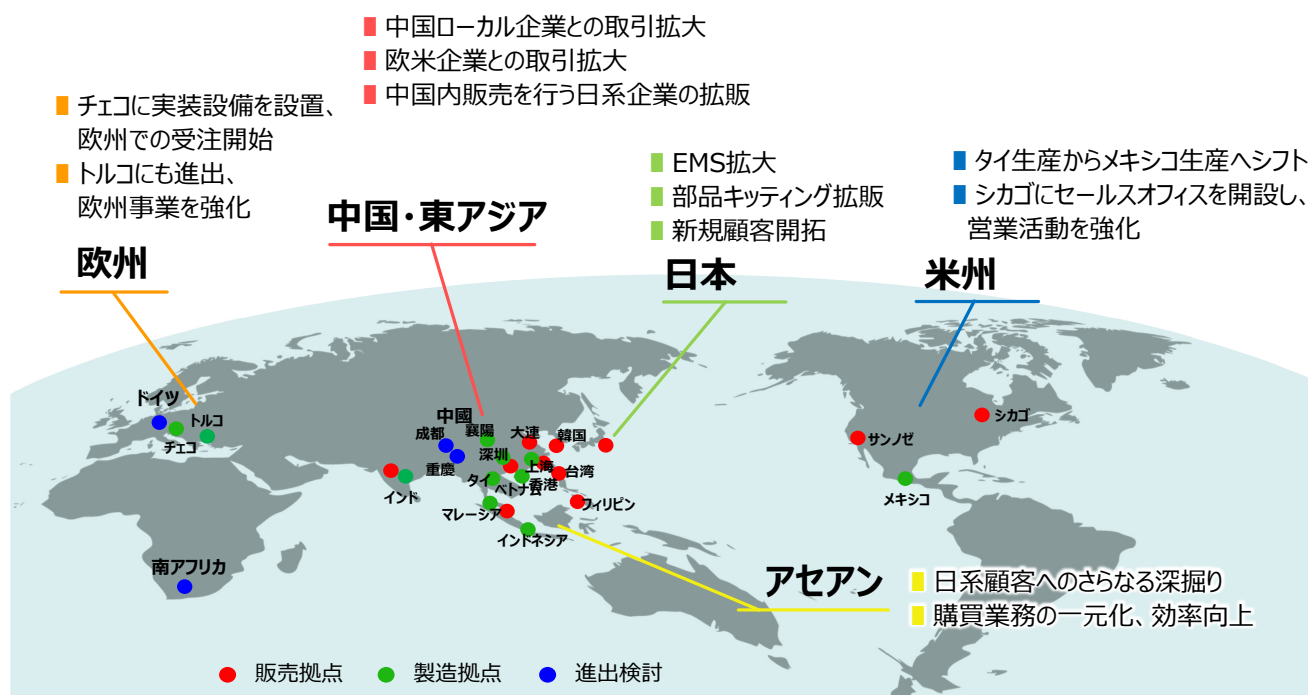
ニュービジネス



アミューズメントに関する製品・ソフト開発及び製造販売およびゴルフ用品販売事業ほか

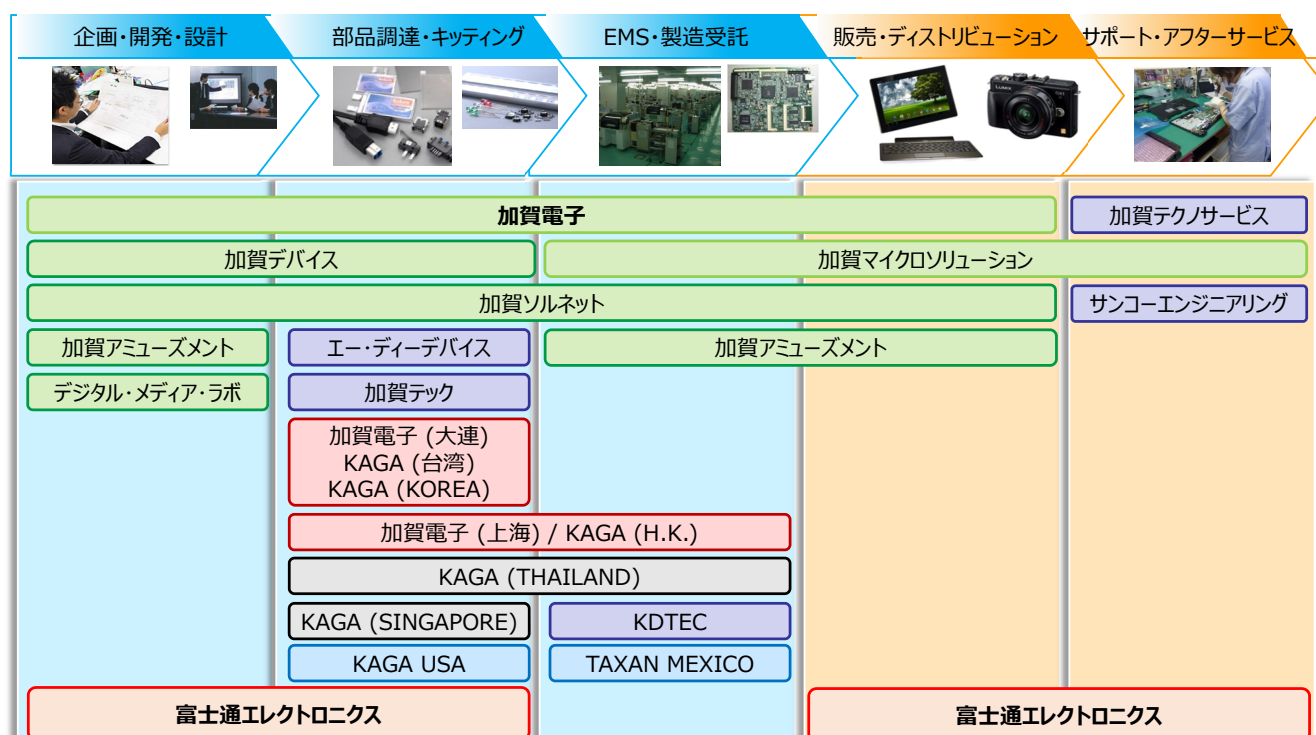
加賀電子グループの強み-①：グローバル

顧客ニーズに、迅速且つ柔軟に対応できるグローバル・ネットワークを構築



加賀電子グループの強み-②：ワンストップ

製造受託に留まらず、販売・販売後サポートまでワンストップで対応できるグループ総合力



加賀電子グループの強み-③：加賀イズム

会社設立以来、創業者や諸先輩の経験に裏打ちされた宝とも言うべき数多くの『語録』。日々の競争を勝ち抜いていくための我々の行動の『拠り所』として、将来にわたって継承。

加賀イズムの3本柱	基本精神
1. 経営マインド 「全員が経営者」であるという意識をもった行動	1-1. 壮大な夢と強い想いをもった経営者たれ
	1-2. ハングリー精神をもってチャレンジし続ける
	1-3. 強い想いをもって、まずは行動
2. 営業マインド 「商社マン・ビジネスマン」としてもつべき意識と行動	2-1. TAXAN努力し、TAXAN儲けてTAXAN幸せになる
	2-2. 人脈は無形の財産
	2-3. 常に、旺盛な好奇心を持ち続ける
3. 社会人としての心構え 社会人として仕事を進める上での意識と行動	3-1. 自己研鑽
	3-2. 信賞必罰
	3-3. 公明正大

中期経営計画 2021 (2019 - 2021)

アウトライン

(2018年11月6日公表)

「利益重視の経営」の確立・定着を通して



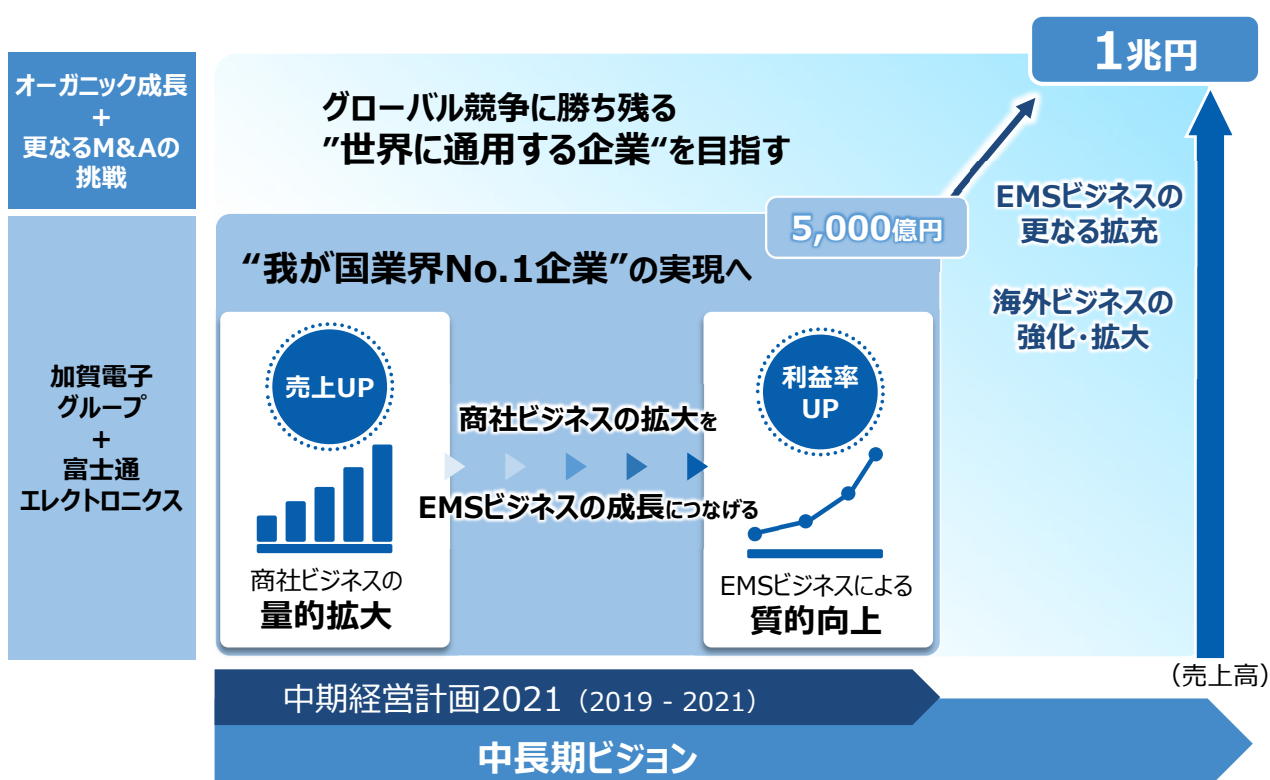
「中期経営計画 2021（2019 - 2021）」 基本方針

	重点課題
1 収益基盤の 強化	時流を先読みする当社グループのDNAを活かし、 高い成長性及び収益性が見込める市場に注力 、収益基盤の強化を図る ・成長分野への取組み強化：「車載」「通信」「環境」「産業機器」「医療・ヘルスケア」 ・EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大
2 経営基盤の 安定化	富士通エレクトロニクスのグループ会社化後の 効率性・財務健全性の早期改善 に向けて経営基盤の安定化を図る ・グループ横断的なコスト削減施策の継続 ・組織体制整備によるグループ経営の効率化推進 ・コーポレートガバナンスの強化、次代を担う人財の育成
3 新規事業の 創出	外的環境変化への耐性強化 のため、自社リソース及びM&Aを積極的に活用、新規事業の創出を図る ・「社会課題（保育、福祉、介護、等）ビジネス」、「素材ビジネス」への取り組み ・ベンチャー投資によるオープンイノベーションの推進 ・M&Aの積極的な活用

「中期経営計画 2021（2019 - 2021）」 経営目標

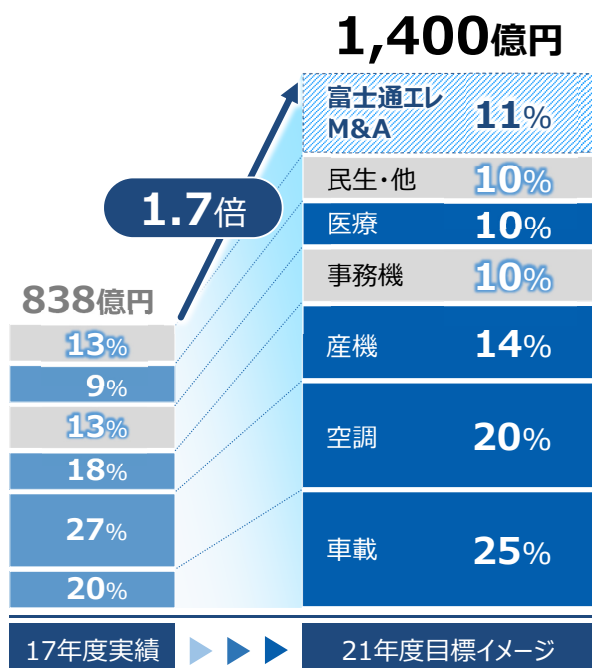
	2018年度 通期業績見通し	2021年度 経営目標	2018年度比 成長率
売上高	2,900億円	5,000億円	72%up
営業利益	77億円	130億円	69%up
ROE	9.9%	8.0%以上	—
為替レート	・ 計画の前提： US\$1.00 = ¥ 110		

「中期経営計画 2021（2019 - 2021）」 の位置付け



＜参考＞ EMSビジネス成長シナリオの考え方

「車載」「産業機械」「空調」医療・ヘルスケア」を成長ドライバーに、17年度比1.7倍の事業規模へと非連続な拡大を目指す



ポイント

オーガニック
成長

富士通
エレクトロニクスの
EMSシフト

更なる
M&A

- 中国・アセアン・欧州での既存生産能力に加え、新設のベトナム・メキシコ・トルコ・インド各拠点の本格寄与により、「車載」「産機」「空調」「医療」の成長分野で事業拡大。
- 富士通エレクトロニクスが持つ有力顧客に対して、「キーデバイス+EMS」のアプローチを展開する。
- EMSビジネスの更なる規模拡大を目指し、国内外で新たなM&A機会に挑戦する。

富士通エレクトロニクスの買収(子会社化)について

(2018年9月18日 IR説明資料)

本件買収の概要

スキーム	・ 富士通セミコンダクターより富士通エレクトロニクス株式70%を取得し子会社化。今後、段階的に取得し2022年1月に完全子会社化
株式譲渡 実行の予定	・ 第一段階：2019年1月（70%） ・ 第二段階：2020年12月（15%） ・ 第三段階：2021年12月（15%）
取得価格	・ 総額205億円（見込総額、アドバイザー費用等含む）
資金調達	・ 自己資金及び新規のブリッジローンにより調達 ・ 本ブリッジローンについては、1年以内に長期資金への切替えを予定
財務への影響	・ 買収価額 < 純資産であり、「負ののれん代：30億円」が発生

本件買収後の業界内ポジショニング（2018年3月期実績）

業界トップクラス、5,000億円級の企業グループ誕生。更なる業界再編の核に

【エレクトロニクス商社 売上高上位10社】

順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,041
2	丸文	3,475
3	UKCホールディングス	3,014
4	富士通エレクトロニクス	2,587
5	リョーサン	2,541
6	菱電商事	2,365
7	加賀電子	2,359
8	シークス	2,332
9	トーマンデバイス	1,976
10	エレマテック	1,962
11	バイテック	1,859

【買収後 売上高上位5社】

(単位：億円)		
順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,041
2	加賀電子 + 富士通エレクトロニクス	4,946
3	レスター (UKC + バイテック)	4,873
4	丸文	3,475
5	リョーサン	2,541

注：「加賀電子+富士通エレクトロニクス」「UKC+バイテック」は、単純合算ベース。
シークスは、2017年12月期を引用。
上表は、富士通エレクトロニクス以外は上場企業を対象。
※データの出所：当社調べ

富士通エレクトロニクスの概要

会社名	・ 富士通エレクトロニクス株式会社
代表者	・ 代表取締役会長 塚本 勲 ・ 代表取締役社長 荻原 淳二
所在地	・ 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-100-45 新横浜中央ビル
沿革	・ 1952年: 平山電機商事株式会社として設立 ・ 1968年: 富士通株式会社が経営参加 ・ 2008年: 富士通セミコンダクター株式会社が完全子会社化
事業内容	・ 電子デバイス製品の設計・開発及び販売
連結売上高	・ 2,587億円 (2018年3月期)

富士通エレクトロニクス・グループの強み

- 富士通エレクトロニクス・グループは、以下を強みとした事業展開を図っています



加賀電子のCSR・株主還元

加賀電子のCSR活動

LPGA新人戦「加賀電子カップ」

本大会は、プロテストに合格した新人選手のみが出場する、トッププロになるための登竜門的な大会。当社は1996年以来、特別協賛を続けています。歴代優勝者としては、不動祐理、横峯さくら、上田桃子、などトッププロを輩出しています。



全国小中学校リズムダンスコンクール

文部科学省の学習指導要領において必修科目となったダンスを学級単位で発表する機会を提供するコンクール。

TBS等の主催で毎年全国大会が赤坂で開催されており、当社は2016年から協賛しています。



金沢マラソン

2015年の北陸新幹線開業に合わせて開催された市民参加型のマラソン大会。

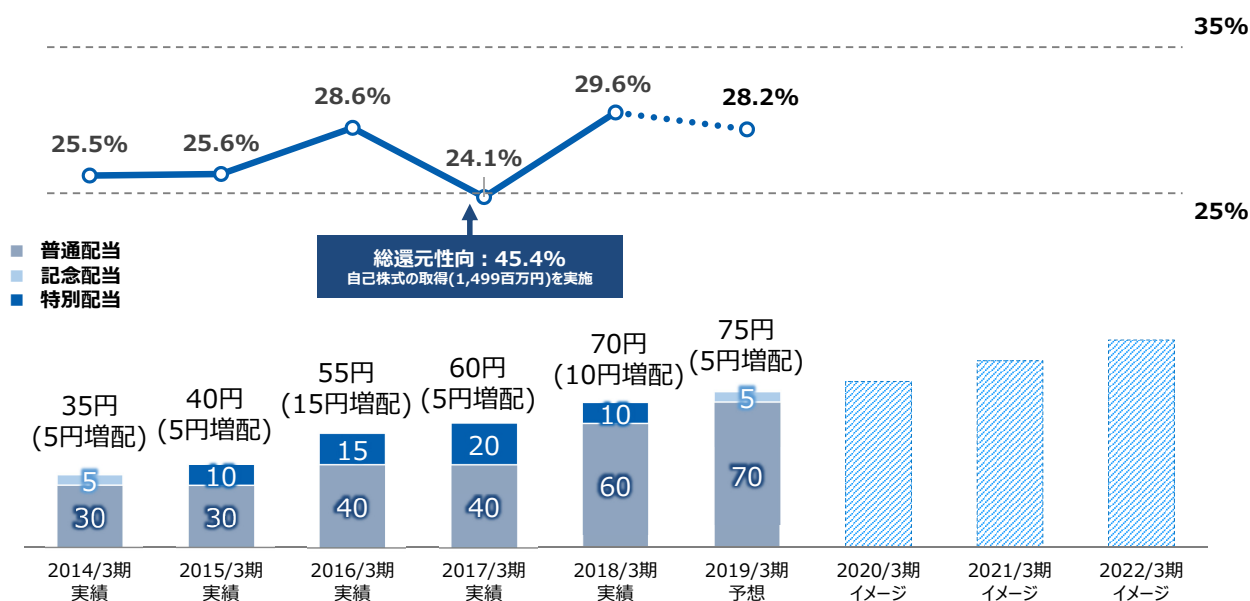
金沢は創業者の出身地であり、社名の由来となる縁の深い土地でもあることから、当社は初回より協賛しています。



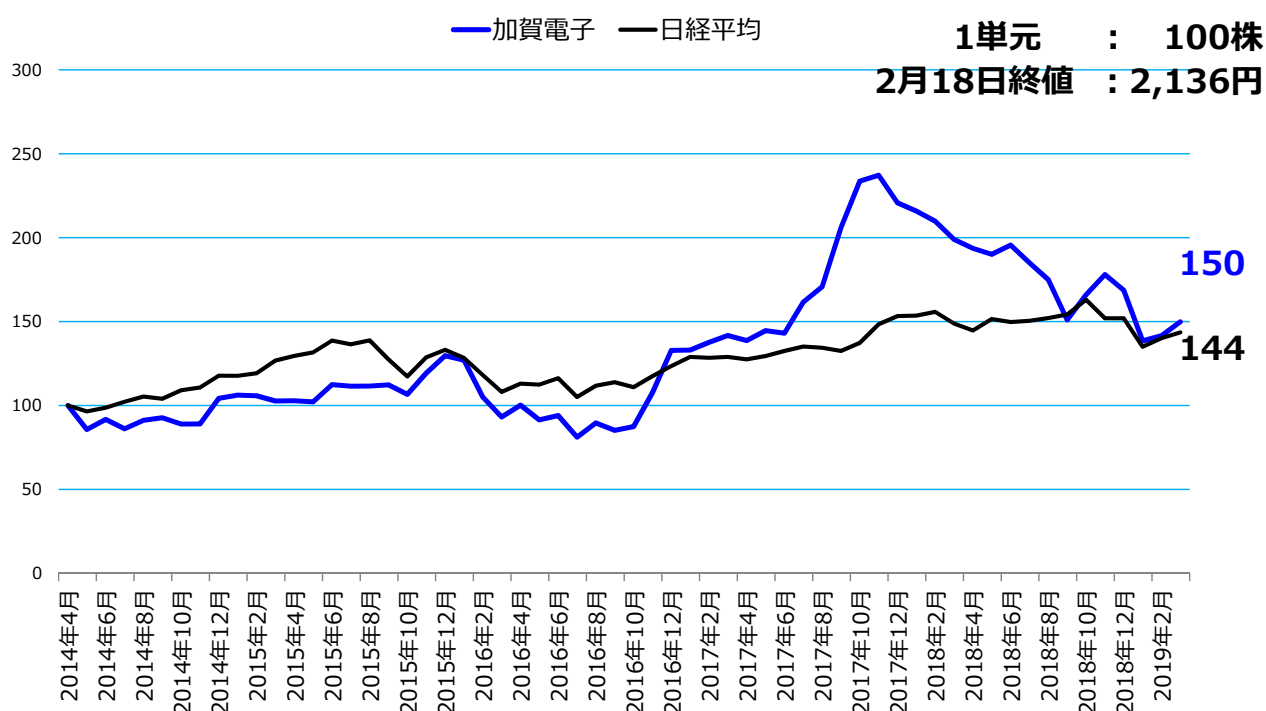
株主還元の考え方

利益配分に関する基本方針

- 連結配当性向25～35%を確保しつつ、**安定的な配当**を実施する。
- 将来成長に資する**事業投資・設備投資、M&A**等に活用する。
- **自己株式の取得**は、資本効率・株価等を勘案し、適切に判断する。



株価推移



参考データ

2019年3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2018/3期 実績	2019/3期 予想 (2018年11月6日公表)	前年比			中期経営計画 経営目標
売上高	235,921	290,000	54,079	+22.9%		290,000
売上総利益	32,498	35,500	3,002	+9.2%	-	-
同利益率 (%)	13.8%	12.2%	▲1.6pt		-	-
販売費及び一般管理費	24,379	27,800	3,421	+14.0%	-	-
営業利益	8,119	7,700	▲419	▲5.2%	-	-
経常利益	8,740	8,000	▲740	▲8.5%	10,000	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,490	7,300	810	+12.5%	-	-
EPS (1株当たり当期純利益)	236.58	266.04	29.46	-	-	-
ROE	9.5	9.9	+0.4pt	-	8.0%以上	-

2019年3月期 セグメント別通期業績予想①

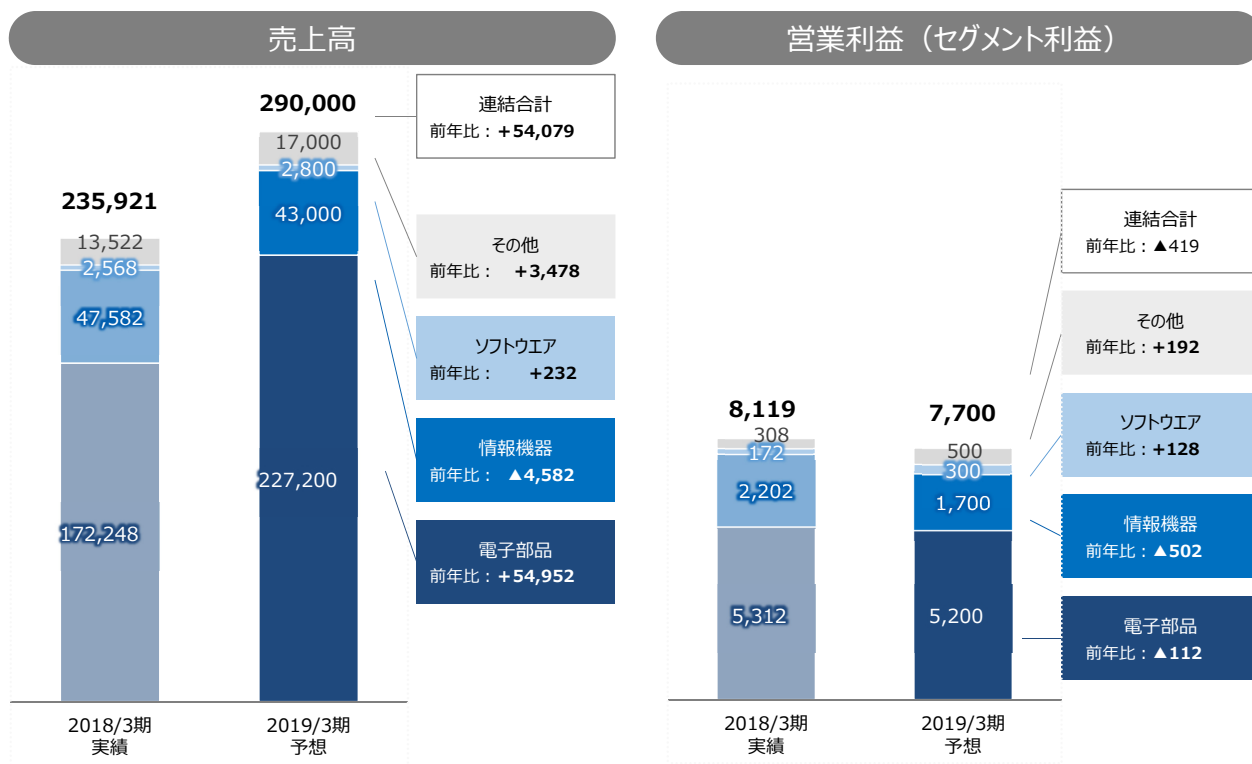
(単位：百万円)

		2018/3	2019/3		
		実績	予想 (2018年11月6日公表)	前年比	
電子部品	売上高	172,248	227,200	54,952	+31.9%
	セグメント利益	5,312	5,200	▲ 112	▲ 2.1%
情報機器	売上高	47,582	43,000	▲ 4,582	▲ 9.6%
	セグメント利益	2,202	1,700	▲ 502	▲ 22.8%
ソフトウェア	売上高	2,568	2,800	232	+9.0%
	セグメント利益	172	300	128	+74.4%
その他	売上高	13,522	17,000	3,478	+25.7%
	セグメント利益	308	500	192	+62.3%
合計	売上高	235,921	290,000	54,079	+22.9%
	セグメント利益	8,119	7,700	▲ 419	▲ 5.2%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

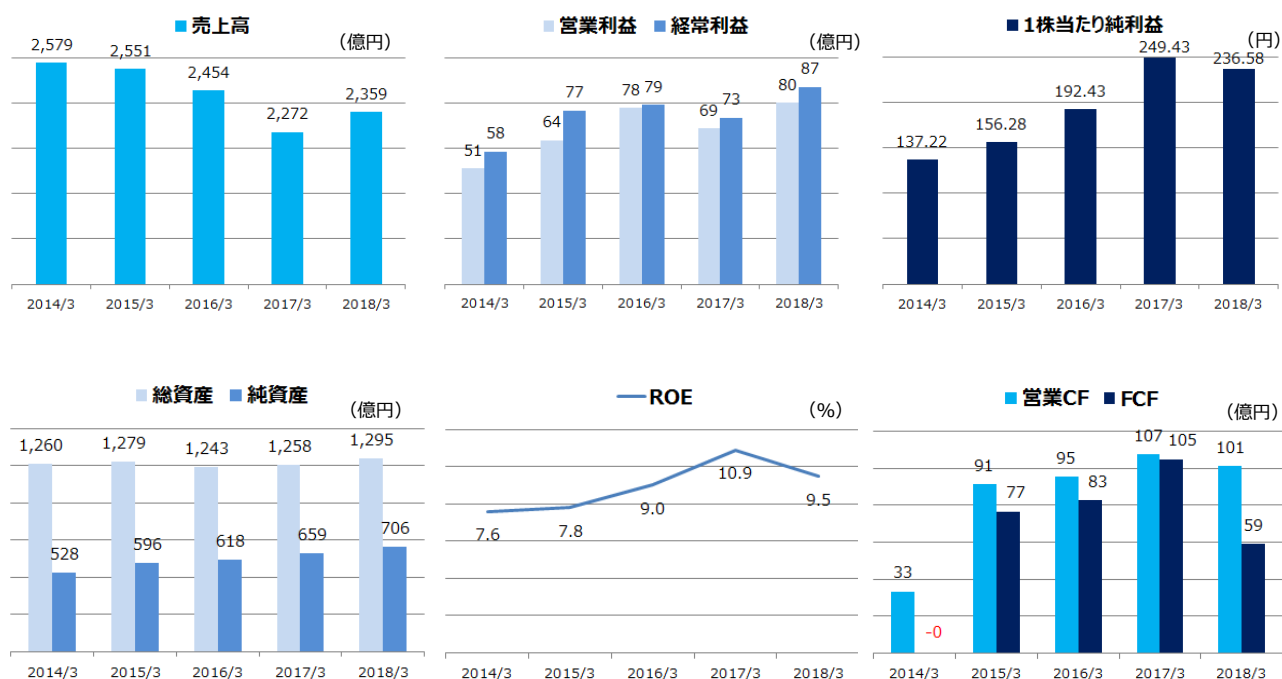
2019年3月期 セグメント別通期業績予想②

(単位：百万円)

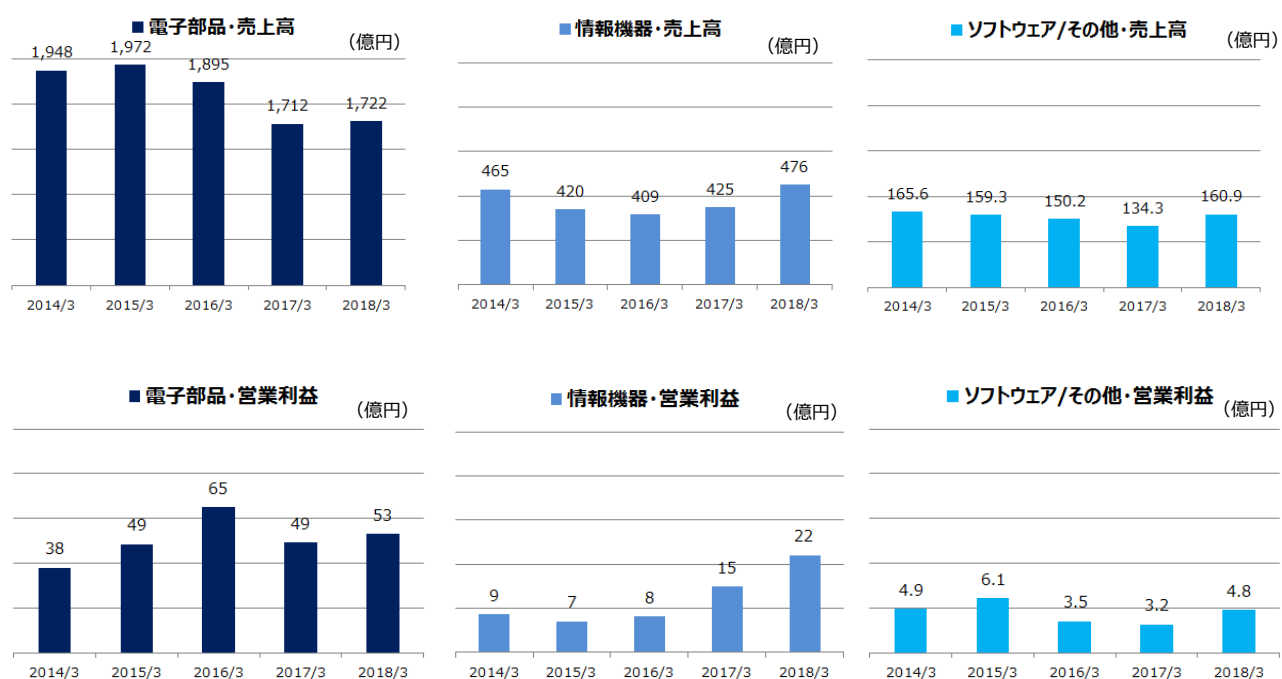


注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

業績ハイライト：過去5年



セグメント別業績：過去5年



<参考> 事業セグメント別取扱商品・サービス

電子部品	・ 半導体（汎用品、カスタム品）の販売 ・ 電子部品（トランス、コンデンサ、ケーブル、コネクタ、スイッチ、など）、LED、ストレージデバイスなどの販売 ・ EMS（空調、事務機器、車載、産業機器、遊戯機器、通信機器、医療機器、など）に関わる開発・製造・販売
情報機器	・ パソコン及びパソコン周辺機器、各種家電製品・照明器具、写真・映像関連商品及びオリジナルブランド商品などの販売
ソフトウェア	・ 各種CG映像制作、アミューズメント関連商品の企画・開発、など
その他	・ エレクトロニクス機器の修理・サポート、アミューズメント機器の製造・販売、スポーツ用品の卸・小売り、など

memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入